

The Need for Students to Study English :

Can English Remain the dominant international Language?

英語班：板本 蒼 寺田 光織 山口 夏未

要約

今日はグローバル化が進み、増え続ける外国人観光客や外国人労働者などから、世間では常に英語の必要性が叫ばれている。本研究では、英語はこれから先も国際共通語であり続けるのか、また英語に代わる言語が台頭するのではないのか、という観点から英語の必要性に疑問を持ち、それらを明らかにすることが目的である。調査の結果として、英語はその利便性や歴史から、国際共通語としての地位を確立し、これからもそうあり続ける、という結論に至った。

Abstract

Today, globalization is progressing, and English has become the de facto language of international communication. As such, a greater emphasis on developing English ability in schools has developed. In this study, we examined the need for English from the viewpoint of whether it will continue to be the dominant language, or whether there is a language that will replace English in the future. The purpose of this study is to reveal them. As a result of the investigation, we came to the conclusion that English has established itself as the standard language used internationally due to its convenience and history, and further hypothesize that it will remain the global standard for the foreseeable future.

1. 序論

この研究では、「学生に英語は必要か、英語はこれからも世界共通語でいられるか」について調べた。たくさんの外国人観光客や労働者が訪れ、グローバル化が叫ばれる世の中で本当に英語は必要なのか、中国語などほかの言語が台頭するのではないかと疑問に思ったからだ。この研究を通して英語の必要性を改めて知ることができれば、勉強の意欲が高まったり、世界を見据えた広い視野を持ち日本をより客観的に見られるようになるだろうと考えた。

2. 研究手法

ここでは、「英語は必要不可欠だ」「英語はこれからも世界中で多くの人に使われ続けるだろう」という2つの仮説を立て、研究を進めることにした。

①「なぜ英語が世界共通語になり、どのように今日まで残ってきたのか」②「英語を学ぶことの利点」、③「英語に代わる言語の存在はないのか」を調べ、英語班の生徒14人を対象に③で調

べた言語で作成した簡単な単語やフレーズの問題を1分間で覚えてもらい、その後単語は日本語から翻訳する書き取り問題、フレーズは口頭での暗唱テストをして結果や感想などから英語との学びやすさを比較する。

3. 結果

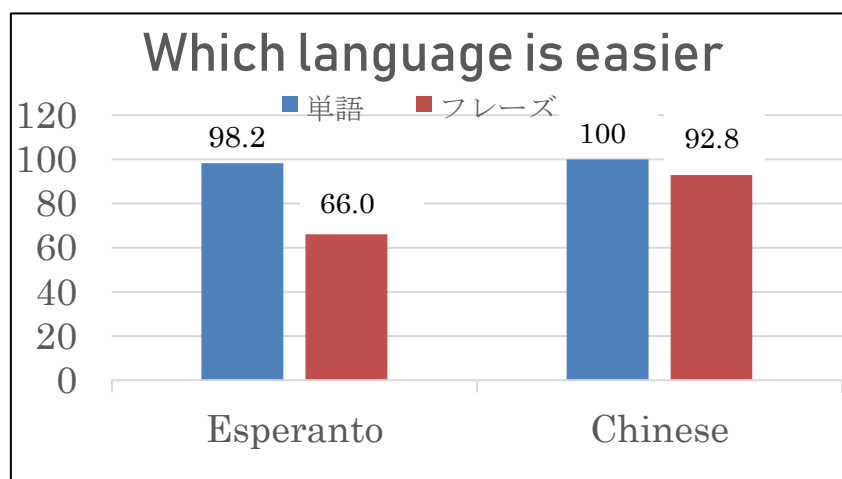
はじめに「①なぜ英語が世界共通語になり、どのように今日まで残ってきたのか」について、英語は工業、経済など様々な面で国際的に影響力の高いアメリカやイギリスの成長と共に、世界共通語として成長してきたと分かった。かつての欧米列強による帝国主義と植民地支配によって、たくさんの国に影響を与えたことが大きく関わっており、また、国際貿易でドルが使われるようになったことも英語を世界共通語にしたひとつの理由である。

次に「②英語を学ぶことの利点」について、医学や科学の国際的な学会だけでなくオリンピックの公用語も英語とフランス語で、サッカーW杯の審判の公式言語も英語のみであるため、世界で活躍するためには文武に関わらず英語が必須だ。

身の回りのことで考えてみても、例えば留学生や外国の方と話す機会があったとして、英語を話せると様々な国の人とコミュニケーションや意見交換ができるため、それを通して自分の考えを深めたり視野を広げたりすることもできる。最近では、実際に会うことはなくてもSNSで簡単に世界の人と繋がれる時代になってきているため、なおさら英語を使う機会は増えていくだろう。これらのことから、英語を学ぶことはビジネスやスポーツ、インターネット上での交流など様々な場面で役立つといえる。

最後に「③英語に代わる言語の存在はないのか」について、母国語が異なる人同士が意思疎通を図るために人工的に作られた国際補助語であるエスペラント語と、世界で最もネイティブスピーカーが多い中国語を挙げ、2つの言語の学びやすさを実験して比較した。

その正答率が下のグラフである。



単語テストの正答率は、エスペラント語が98.2%、中国語が100%、また、フレーズのテストの正答率は、エスペラント語が66.0%、中国語が92.8%だった。問題が8問ずつしかなかったからか全体的に正答率は高めであったが、エスペラント語の方が正答率は低く、難しいと感じた人が多かった。

4. 考察

①②から、英語は長い歴史とともにその地位を確立し、アメリカやイギリスなどの英語を公用語にしている国以外でも世界中で多くの人に話されてきた言語だと分かり、これからも衰退していくことはないと考えた。

また、③の実験から、エスペラント語はアルファベットが使われているため同じようにアルファベットを使う英語圏やヨーロッパ諸国では広まっていくかもしれないが、漢字を日常的に使う私たち日本人には難しいのかもしれないと分かった。言語は文化とともに広がるので、エスペラント語が単体で普及していくこともまた厳しいだろう。中国語に関しても、漢字に馴染みがある国は日本や中国、韓国ととても少なく、母国語とは異なる文字を使うエスペラント語が私たちに広まりにくいと同様に、中国語が西洋で使われるようになるのは難しいだろうと思う。よって、③で言及した英語に代わる言語の存在についても、中国語のように人口の増加に基づいて話者が増える言語はあったとしても、英語よりも一般的に使われるようになる言語は現れないだろう。

5. 結論

学生に英語は必要か、英語はこれからも世界共通語でいられるかについて、他の言語との学びやすさを比較し英語の必要性を調べた。その結果、他の言語は使われる地域が限られていることや英語は文化面や学術の面の両方で公用語として使用されていることが分かった。

これより将来世界で活躍するために英語は必要不可欠な言語であるため学生は英語を学ぶ必要があり、英語の長い歴史などから世界中の多くの人々が様々な国で使う共通語であり続けるといえる。

6. 参考文献

[英語が世界共通語になった3つの理由とは？これが分かれば世界が分かる | Smilenglish~笑顔になれる英語学習~ \(2019\)](#)

[エスペラントとは - 言語入門編 | 一般財団法人日本エスペラント協会 \(jei.or.jp\)](#)